

### 16.4.3分野別団体ヒアリング(健康・福祉)

発言者・団体	意見タイトル	意見要約
A	パートナーシップを担う市民が出てこない	「市民参加からパートナーシップへ」と書かれているが、NPOの優遇税制問題や有償ボランティアへの課税など課題が多く、担い手となって活躍する市民が出てくるのか不安。
B	ボランティアの活動拠点の提供	ボランティア団体に活動拠点の提供等具体的な支援をしないと、担い手が出てこない。
C	平成26年の財政状況を考えて	討議要綱はよくできている。問題は実現可能性。平成26年に武蔵野市は財政的にどうなのか考えてほしい。
	生産性向上の評価手法は？	P37に「生産性」とあるが、何を以て生産性が上がったと評価するのか。評価の新たな指標が必要ではないか。
	雇用問題についても触れて	60歳定年から65歳までの間の雇用に関して、シルバー人材センターは一定の役割を果たしている。雇用問題についても触れてほしい。
	健康福祉マップが必要	病院や高齢者施設などの分布がわかる健康福祉マップが必要。
D	行政による福祉施設に相応しい立地の提供	関前にグループホームが新設されたが、周辺に商店がなく、グループホームに求められる機能が果たせない状況。行政が施設に相応しい立地の提供を行わないと施設が活かされない。
	人にやさしいみちづくりにおける民家との接道部分の段差	人にやさしいみちづくりによって、道路は歩行者にとって快適になったが、民家との接道部分には段差がある。この辺も考えて欲しい。
	ボランティアの年齢・費用負担・居場所	特養のボランティアは定年後の人が中心。また、ボランティアの費用負担も発生。さらに、ボランティアの居場所がない状況がある。
	ボランティアの必要人員・コーディネイトの必要性	施設のボランティアはギリギリの人数で休めない。必要な人数の2倍は必要。また、ボランティアをコーディネイトする人が必要。
E	市民社会福祉協議会(社協)による支援	社協は、障害者に対する認識が低い。市は社協の活動のバックアップをして欲しい。
F	ボランティアセンター(ボラセン)/社協本体の取組	社協やボラセンに関する記述がない。ボランティアのコーディネイトはボラセンが担うべき。地域社協ができたが、社協本体が積極的に取り組む必要がある。
	児童クラブ(障害児)年齢制限/自主学童活動への場所支援	児童クラブは障害児も小3までしか入会できない。延長すべきである。また、場所の提供等の支援が必要。
G	ボランティアに興味を持つ人	P36に「機会があればボランティアをしてみたい人が6割」とある。この人たちに活躍してもらうようにするのがボランティアセンターだ。
	コミュニティセンター(コミセン)の機能/行政の横の連携	各地域のコミセンを拠点に防災も福祉もやっていくべき。行政の組織が別なためうまく連携ができていない。

### 16.4.3分野別団体ヒアリング(健康・福祉)

発言者・団体	意見タイトル	意見要約
H	討議要綱における地域福祉活動推進協議会(地域社協)の記載/地域社協への支援	地域社協は地域のパートナーシップを目指している。討議要綱にコミセンの記載はあるが、地域社協の記載はあまりない。地域社協をどう評価しているか。活動の支援が必要ではないか。
I	障害者の文化活動に場所の支援	高齢者、障害者が文化的な活動ができる場所を設置してほしい。
J	土曜学校等における障害児受け入れ	土曜学校等の事業が実施されているが、障害者を受け入れるという記載をして欲しい。
K	市の個別計画及び組織の簡素化	市の各部門から個別計画が出されているが、みな立派で読みづらい。シンプルイズベスト。組織自体もそうあって欲しい。
L	障害者福祉センターの改築	障害者福祉センターは、円形建物で使いにくい。老朽化し、不備な点も多い。大きな施設に建替えを。
	ケアハウスや特養の施設増設	ケアハウスや特養がまだまだ足りない。高齢者や障害者のため施設を充実させて欲しい。
	障害者のショートステイ施設入所の取扱	障害者のショートステイについて、突発的に入所する場合の施設がわからない。施設を一本化して欲しい。
M	シルバー人材センターの人材が持つ技術の子どもたちへの伝承	今の子どもたちは家の中にばかりいるので、シルバー人材センターの人材が持っている技術を子どもたちに伝える場所を確保して欲しい。
	社協施設の充実	市の福祉をサポートしている団体(社協)が間借りという状況であることを書いて欲しい。
N	独居高齢者の災害時の救出	独居高齢者は増えており、災害時の救出が問題だ。高齢者を助けるのは地域だ。
	災害時の障害者避難所	障害者の避難所について書いていただきたい。
	グループホーム自体の充実	P47「体験型グループホームの整備」と書いてあるが、時代遅れである。グループホーム自体の充実を図って欲しい。
O	障害児の余暇活動/障害分野の人材の充実	P47に障害児の余暇活動について書いてあるが、帰宅後の過ごし方が重要。子どもという中に障害をもつ子を含めて考えて欲しい。学齢期に地域で活動できる場が欲しい。また、障害分野の職業は待遇が悪く専門職員自体が不足し、ボランティアに頼らざるを得ない。中心となって活躍する人には一定の待遇が必要。
P	障害児を社会全体で支えて	障害児は行き場所がないため、その対応はすべて親が背負っている。社会全体で支えていく必要がある。また、行政も関係各課で調整を図って取り組んで欲しい。障害児を支える活動が身近な地域でどこでも行なわれている状況になると良い。
Q	市民が安心して生活できるのか、総合的に考えて	ごみ収集が個別収集になると、ごみで繋がっていた関係も途切れてしまう。事前にもっと地域の声を聞いて欲しかった。どうしたら市民が安心して生活できるのか、総合的に考えて欲しい。

#### 16.4.3分野別団体ヒアリング(健康・福祉)

発言者・団体	意見タイトル	意見要約
R	近隣市町村との繋がりについて/第2次地域福祉活動計画	災害時等においても、近隣市との繋がりは大変なので取り入れていただきたい。また、第2次地域福祉活動計画ができたので、施策の中に取り入れていただきたい。
S	コミセンと地域社協、福祉対策や青少年対策等の統合/三鷹北口	コミセンと地域社協、福祉対策や青少年対策等がなぜ一箇所にまとめられないのかと思う。また三鷹北口の駐輪場はもったいないので、シルバー人材センター、社協等の活動拠点としてはどうか。